

教務だより

2017年1月号
茗溪塾

茗溪塾教務部 03-3659-8638

激動の時代 変わる受験

受験は自分を鍛えるチャンス！

茗溪塾塾長 宇野雅春

2017年がスタートしました。受験生はいよいよ受験本番を迎えます。新春を彩るTVのパラエティー番組は、何かバラ色の夢を振りまいている感があります。「楽しいこと」「華やかなこと」、視聴者としては、やはりそこが見たいのでしょう。実は番組制作のほうは非常に苛酷、人に夢を与える仕事ほど、プレッシャーも大きくストレスも大きいものはずです。そんな表向きとは別に世の中を見渡すと激動の波をひしひしと感じてしまいます。

日本はかつてない少子高齢化の時代を迎え、このままいけば経済破綻もありうる危機にあります。世界にはテロがはびこり、世界競争も激化、不穏な出来事が後を絶ちません。そうした表面上のこのみならず、その裏にはPCの普及、AIの開発など文化そのものを根底から変えていく時代の大きな流れがあります。文化の根底が変化することで、人の有り様も大きく変わってきます。

男女の格差はなくなり、女の子が「ぶっ殺す！」と冗談で言い合える時代はそんなに悪くないのかもしれませんが、それについていけない大人もたくさんいるはずですよ。

「古い考え」と「新しい考え」がせめぎ合う時代の変革期といえるかも知れません。

最近、強く感じるのは、個人の努力や偉業が今までのようには評価されないということです。つまり、チーム指導力やリーダーシップが、実は成功をもたらすということなのではないかということ。青山学院の箱根駅伝3連覇も、作り上げたチーム力の勝利ということでも興味深いものを感じます。こうした傾向は個人にすべての重しをかける今までの考え方に比べると、見方によっては悪くないような気がします。

正月のTVで火星に取り残された一人の宇宙飛行士を救い出す「オデッセイ」という映画をやっていました。今までの映画と完全に違う印象は、深刻な状況にもかかわらず終始一貫した明るいトーンが流れているところです。つい最後まで見てしまったのですが、一人を救出する原動力が、あくまでも「チーム」にあるという点…宇宙を前にしては、個人では到底立ち行かないということなのだと思います。取り残された本人の強い意志もありながら、チームのひとりひとりの持つ力が最終的に救出を可能にしていきます。経営も医療も学校も塾もすべてチームの作り方にかかっているのだということを強く感じました。

今のこの時代、何を準備していけばいいのか。入試も変化していきます。未来に向けて必要な力を模索しながら、変化しているということだと思います。

「受験は心の勝負」ですが、人と人のつながりが心をさらに強くするはずですよ。受験生の皆さんにはつらい時期かもしれませんが、ここに耐えることが、きっと皆さんを鍛え、将来に向けての貴重な「力」になるはず！…と信じています。